

総研大 集中講義B

テーマ「地域研究の方法」

実施時期 平成18年8月29日～8月31日

担当

小野、久留島、篠原、高橋、小池

内容

日本列島および関連する諸地域において、実際に地域文化がどのように展開しているかを実際の史資料に即して確認、検討、分析する。2泊3日程度を標準に、当該地域社会で史資料に接し、併せて地域における資料化や博物館、資料館等での展示への手法を学ぶ。

具体例

1) 一定の歴史的、民俗的なまとまりを持つ地域で実施する。まず、2～3日程度の民俗学的なフィールドワークを行う。その成果について、毎晩ミーティングを行い資料化のプロセスを経験する。

2) 同地域の多様な史資料の存在形態を確認し、調査や整理のコツ及び目録の作成の基礎を学ぶ。

3) 同地域の博物館、歴史民俗資料館、文書館等において、地域における文献及び民俗資料の存在形態と整理、展示と保存の手法について実地に見学する。

※以上の1)～3)を専門の異なる複数の教員の指導のもとに短い時間で体験することで、大学院教育における知識を具体的に実践する端緒とする。

以上のように民俗学、歴史学、考古学、博物館学の実際を地域社会の実状に即して集中的に学び、大学院で培った知識や手法、視点を実際の現場において発揮するための基礎訓練を行う。その際に異なる専門領域の教員複数及び当該地域の専門家とともに一連の作業として体験もしくは見学することでより高度で応用力に富んだ歴史研究の手法を身につけることが可能になる。